

IGA 専門部会報告

2022 年 4 月 19 日
IGA 専門部会幹事会

1. IGA 専門部会会員数（2022 年 4 月 12 日時点）

110 名（2021.12 以後に 5 名退会）

2. IGA 関連情報

(1) 理事会等

- ・ 2022 年 3 月 2 日に、メンバーシップ委員会と事務局が作成した IGA 規約変更案につき、事務局と規約委員会との間でオンラインの意見交換。日本から規約委員会の安川理事と内田委員が参加。
 - 変更案は、個人会員を廃止し、学協会会員及び企業会員のみとするもので、理事選挙の投票権は学協会または企業として 1 票、理事数も大幅減となる。規約委員会からは個人会員の存続を求めた。引き続き理事会で協議する。
- ・ 2022 年 4 月 8 日に、オンラインで理事会が開催された。安川理事が参加。概要は以下であり、詳細は別紙参照。
 - ポーランド地熱学会が、ロシア地熱協会の排斥、ウクライナの会員への支援に係る提案書を提出。理事会は、会費未納のためロシア地熱協会の会員権の凍結と、ウクライナの会員に配慮する方法を検討することを決定。
 - WGC 関連：WGC2020 は約 30,000-USD の黒字であった。WGC2023 のアブストラクト提出期限は、2 週間延長された（4/14 まで）。ハイブリッド開催になる可能性が高い。
 - IGA 会員モデル変更関連：メンバーシップ委員会より、新たな会員モデルの案について説明があった（詳細は別紙参照）。企業（Corporate）メンバーを増やすことで収入の安定化を図る目的。採決が行われたが、保留が多く、次回に持ち越しとなった。

3. アジア西太平洋地域支部（AWPRB）関係

(1) 定例会議実施（2 月 23 日、3 月 22 日：オンライン）

主な議題は以下のとおり。

- ・ Webinar の結果、次回準備状況等。前回の技術トラブルにより、オンライン関連サービス業者との契約は打ち切る予定。
- ・ WGC2023 参加への準備状況。
- ・ AWPRB 加盟各国協会への支援関係。オーストラリア地熱業界で掘削リスク低減に係るプログラムの策定要望が高まっており、フィリピンでの過去の提言資料などによりアドバイスを提示、等。

(2) Webinar 実施

- ・ 延期されていた Zhonghe Pang 氏（中国）による講演（Geothermal space heating and contributions toward Carbon Neutrality in China）を 2 月 23 日に実施。約 60 名が参加。
- ・ 次回は、4 月 26 日に、Conrad Kumul 氏（PNG）による講演（An update from Papua New Guinea: Geothermal investigations of Feni Islands, and the new national energy authority）を実施予定。参加登録受付中。

4. その他

- ・ IGA 専門部会の会費徴収（3 年分）を概ね終了。未納者への呼びかけを実施中。

以上

2022 年 4 月 8 日 IGA 理事会報告

1. 事務局長 Marit Brommer から、活動報告があった。WGC2020 の報告、各種委員会活動に対する感謝等があった。

2. ポーランド地熱学会からの意見書について

ポーランド地熱学会を代表して Beata Kepinski から、ロシアのウクライナ侵攻と残虐行為を鑑みて、IGA はロシアの地熱協会を排斥 (remove) し、ウクライナの会員に特別な配慮をする応援メッセージを IGA ウェブページに掲載すべきとの意見書が示された。

理事からの意見は主として、感情的には賛同するものの非常に慎重な考慮が必要との意見、IGA は非政治的団体であり Constitution の面からもロシアの排斥は難しいとの意見、ウクライナの会員への配慮 (WGC2023 への招待や会費免除など) に賛同する意見であった。一方、ロシアの地熱協会は会費未納であり、ロシアの金融機関が凍結している現状から納付は当面無理との見通しがある。

そのため、会費未納のためロシア地熱協会のメンバーシップを凍結 (suspend) すること、ウクライナの会員に配慮する方法を考えていくことが決まった。

3. WGC について

WGC2020 は、1 年の延期とハイブリッド開催など経費がかさんだにも関わらず、約 30,000USD の黒字であった。WG2023 の組織委員会は活動的であり、145 人がレビュアーとして登録されるなど、精力的に活動が進んでいる。アブスト締切は 2 週間延びた。これまでのところ、中国からのアブスト投稿が多い。ラテンアメリカ及び北米からのアブストが少ない。ハイブリッド開催についても検討されており、現状ではハイブリッドになる可能性が高い。IGA 理事会の関わり方が変わってくる。たとえば小さな国からの Visa の申請を手伝う等のボランティアが必要。WGC2026 についても考える必要がある。

4. IGA 会員モデルの変更について

メンバーシップ委員会より、新たな会員モデルの案について説明。これまでの Affiliated メンバー (地熱学会等) は無くなり、Institutional メンバーとなる。ここには、各国の学協会や研究所、政府組織 (例えば JICA) などが含まれる。企業は Corporate メンバーとして参加する。個人メンバーは存続するが、投票権等がなくなる。IGA 理事候補は、各 Institutional メンバーと各 Corporate メンバーから 1 名ずつ推薦されて投票が行われ、投票権は各 Institutional メンバーと各 Corporate メンバーで 1 票ずつ。この変更の背景には、IGA のほとんどの収入が企業からの寄付により成り立っていることがあり、Corporate メンバーを増やすことで収入の安定化を図る目的がある。なお、この他に最大 5 名の Foundational メンバー (これまで IGA 等で国際的に貢献してきた機関の代表) が理事会により別途選定され、1 期(2013-2016)のみ理事となる。

この案は理事会で初めて出た話であり、もっと考える時間が欲しかったという意見が多数。メンバーシップ委員会の案に対する採決が行われたが、ほとんどの理事が保留であり (賛成は会長とメンバーシップ委員会メンバーの理事のみ。規約委員会メンバーの理事も保留)、次回に持ち越しとなった。